

第八次救援隊報告書

1. 概要

- ①期 間 5月18日(水)から5月23日(月)
- ②目 的 岩手県釜石市から東京都市長会への応援要請により、市長会第2ブロック10名が現地で支援活動(避難所の管理運営)を行った。
- ③目的地 岩手県釜石市内の避難所(釜石中学校)
- ④構 成 市長会第2グループから6市合計10名の職員 ※うち女性1名(昭島市所属)
(立川市、国立市、武蔵村山市、東大和市から各2名、国分寺市と昭島市から各1名)
- ⑤車 両 大型バス1台(市長会による借上げ車)

2. 釜石市の状況

- ①人 口 約4万人
- ②被災状況 ・死者、行方不明者約1,312人
・避難所 52か所 その他在宅避難多数
※避難所へ配付される本部情報(5/22現在)による

3. 概要

東日本大震災に伴い、岩手県釜石市から職員の派遣要請があり、市長会を通じて被災者避難所の管理運営支援業務などの人的支援を行うため、市長会により用意されたバスに乗車し、目的地である釜石中学校へと向かった。そこで、釜石市職員の指示に従いながら、食事の支度や片づけ等、避難所の運営全般の手伝いを行った。

4. 活動内容(釜石中学校の1日の業務の流れ)

- 毎朝午前3時頃に配達される新聞を受け取る。
- 午前5時頃、廊下にある3台の電気ポットに電源を入れお湯を沸かす。
- 午前6時になったら「おはようございます。」等の声をかけながら避難所の居住スペース(格技場)の灯りを点灯する。
- 午前6時半頃になると、自衛隊がご飯を届けるので、受け取り午前7時頃まで朝食の配膳の準備や配膳の手伝いを行う。
- 午前7時半頃、釜石市職員が出勤してくるので、一緒に朝食の片付けを行う。
- 午前8時頃になったら、職員室へ行き、釜石中学校の先生にマスタキーとAEDの返却を行う。
- 毎週月・水・金曜日は収集業者によりごみの回収があるので、午前8時になったら、

仮置きしておいたごみを搬出して回収してもらう。

- 午前 9 時頃、支援物資がほぼ時間通り来るので、内容を確認後指示された場所へ搬入する。
- 正午にかけては昼食の配膳の準備や配膳の手伝いを行う。
- 午後 1 時頃まで昼食の片付けを行う。
- 午後 5 時頃、職員室へ行き、釜石中学校の先生に AED をお借りする。マスターキーは学校側で戸締りを確認した後に届けてくれるので受け取る。
- 夕食はお弁当になるので、宅配業者から受け取り、午後 5 時過ぎから夕食の配膳の準備や配膳の手伝いを行う。
- 午後 7 時頃まで夕食の片付けを行う。
- 午後 7 時半頃、釜石市職員は帰宅するので午後 9 時まで体育館の施錠確認、避難所内等のごみ箱のごみ捨てなどを行う。
- 午後 9 時のタイミングで避難所の消灯をする。
- 消灯後は夜勤となり、2 交代制で、夜間受付業務を行う。

また、この業務以外にも、ゴミ袋の交換、ポットの給水、トイレトペーパー、ハンドタオルの補給、飲料水やお菓子の補給、ストーブの灯油給油等を適宜実施する。

5. 所感等

今回は避難所の運営を手伝うという活動内容でした。釜石中学校避難所に配属され、最初に避難所内に足を踏み入れた時、館内にいる避難されている方に笑顔で話しかけて頂き、その気丈な振舞いや温かいお言葉に驚きと同時に深く感謝しました。

五日間という短期間では業務になれたころに帰ることになり、本当に役に立っているか不安でしたが、そういった短い期間の中でも、職員の指示待ちではなく、ポットの水足し、ごみ捨て、救援物資の整理等気づいたことは率先して何でもやることで避難者の方や釜石市職員と信頼関係が多少なりとも築けたことに大きな充実感を感じました。

5月20日と22日には釜石市職員の計いで釜石市および大槌町の被災地を視察させてもらいました。およそ日本とは思えない光景に、自然と声にならない声のでていました。大槌町役場の時計が津波の時刻で止まっていたり、消防車がめちゃくちゃに潰れていたり、地震発生から2ヶ月以上過ぎても今なおその津波の爪痕は残ったままで、生と死がまざまざと目の前に突きつけられた思いでした。瓦礫の撤去などは徐々に進んでいるものの、復興にはまだまだ多くの支援、協力が必要であると痛感しました。

釜石中学校避難所で避難所運営に当たるなかで、市職員の方に震災直後の避難所の運営体制などの話を聞かせて頂きました。避難所は地震発生3日後の3月14日に開設されましたが、避難者名簿はみんなで手書きで一覧表を作成したり、部屋の割り当ても市職員は指示せず、避難者の方が寝れるだけのスペースを自発的に振り分けていった等の話を伺い、震災直後の混乱のなかこのように避難者の方と市職員が協力・連携し合っ一つ一つの避難所を運営していくことの大切さと必要性を強く感じました。

避難所運営支援というかたちで来所しましたが、トイレや共用部分の清掃、簡単な調理、食器洗いなどの仕事はすでに避難所内で自発的に行われており、非常にまとまりがありました。また避難者の方は皆さん温かく、気さくに話しかけてくれるのでかえって

こちらがお話を聞いてもらう場面もあり非常に頭が下がる思いでした。

今回この釜石中学校の避難所運営に当たるなかで、たくさんの方とお話をさせて頂いたり、普段は体験できない経験をさせて頂き、支援に行ったにも関わらず逆に多くのものを学ばせて頂いた思いです。今後はここで経験したことをできるだけ多くの人に伝えていきたいと考えております。

以上報告いたします。

★写真



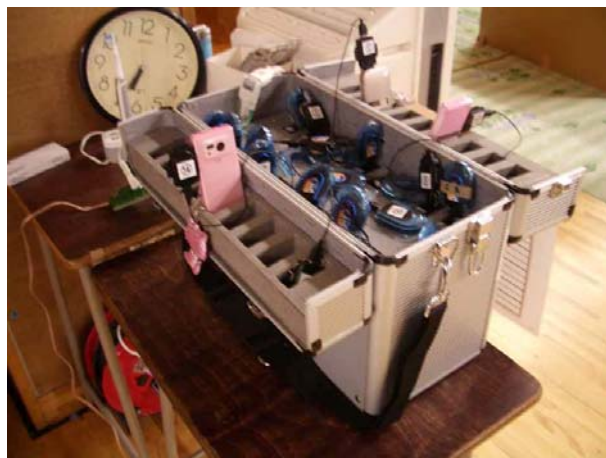
食事調理（学校家庭科室）



仮設トイレに書かれたメッセージ



電線が壁にめり込んでいる



携帯電話充電器（電話会社が設置したもの）



JR 山田線（線路は撤去されている）



ガソリンの給油は人力ポンプ（自転車の様なものが給油装置）



携帯電話中継基地



消防署



地震発生後災害対策本部を立ち上げるべく参集していた約60人のうち町長を含む約40人が津波に襲われ行方不明



道路の土砂は取り除かれている



店舗を失い仮設で営業再開している



赤い旗は建物も瓦礫も撤去OKの合図



電柱が急ピッチで復旧されている



歩道が無くなっている



武道場入口（避難者生活スペース）